



# 2023年度 第2四半期 決算説明資料

ダイキョーニシカワ株式会社

2023年11月

1. 2023年度 第2四半期実績（前年同期比） P.2
2. 中期経営計画の重点取組み P.8
3. 2023年度 連結業績予想 P.24

# 1. 2023年度 第2四半期実績（前年同期比）

# 2023年度 第2四半期実績（前年同期比）

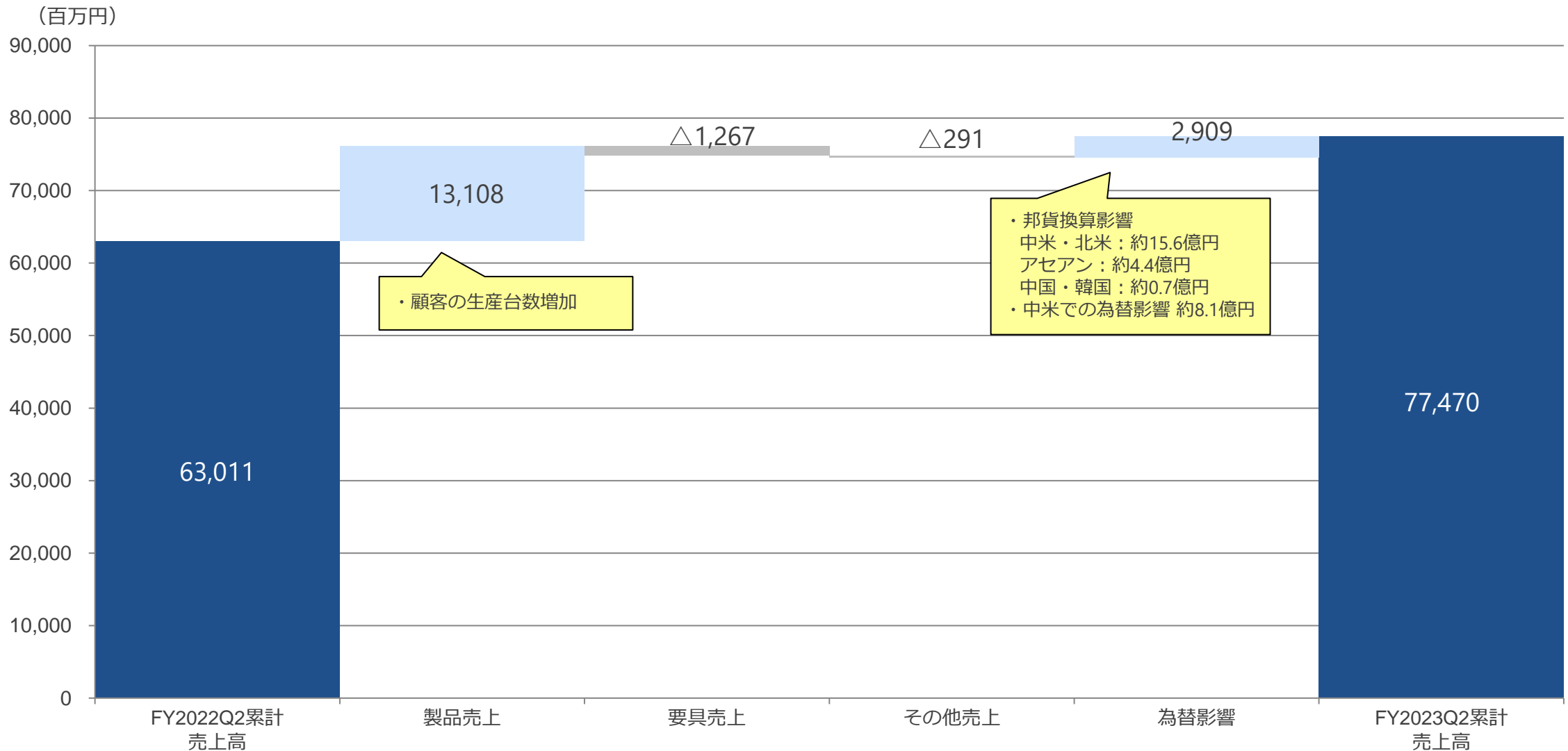


- 売上高は、主要顧客の生産台数の増加と邦貨換算影響等により増収
- 営業利益は、増収影響とコスト改善活動の実施に加え、原材料/エネルギー費/労務費上昇分の価格への一部転嫁、中米での為替影響等により増益

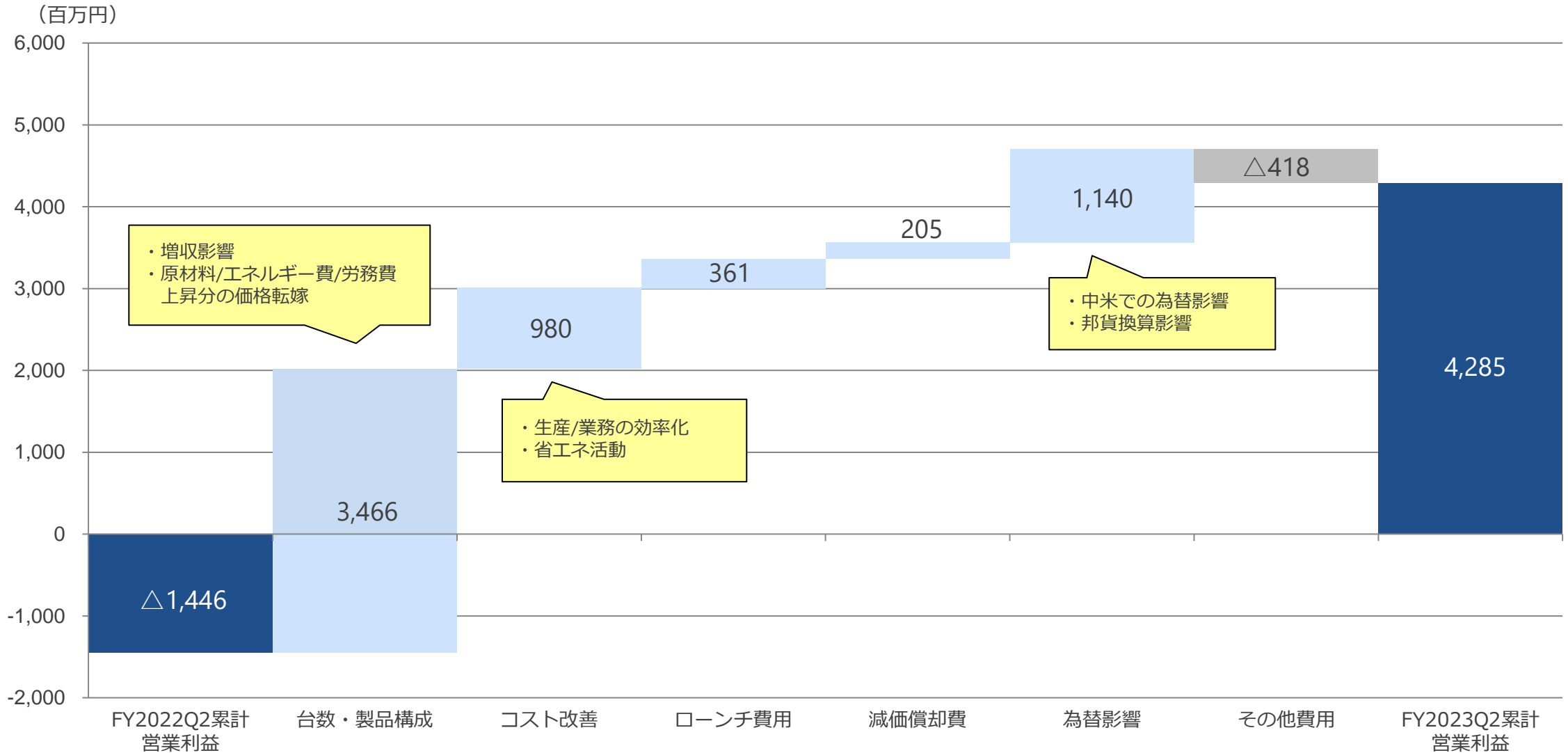
(百万円)

	FY2022	FY2023	前年同期比	
	Q2累計	Q2累計	増減額	増減率
売上高	63,011	77,470	14,459	22.9%
営業利益	△1,446	4,285	5,732	—
営業利益率	△2.3%	5.5%	7.8pts	
経常利益	△1,179	4,617	5,796	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	△1,565	2,950	4,515	—

# 連結売上高 増減要因 (前年同期比)



# 連結営業利益 増減要因 (前年同期比)



# セグメント別の外部売上（前年同期比）



- 日本では、主要顧客の生産台数の増加に加え、戦略OEMを中心とした売上増加により増収
- 中米・北米では、顧客の生産台数の増加に加え、邦貨換算影響および中米での為替影響により増収
- アセアンでは、顧客の生産台数の増加と邦貨換算影響により増収
- 中国・韓国では、顧客の生産台数および金型売上の減少により減収

(百万円)

		FY2022	FY2023	前年同期比	
		Q2累計	Q2累計	増減額	増減率
国内	日本 (構成比)	44,603 (70.8%)	52,080 (67.2%)	7,477	16.8%
海外	中米・北米	10,943	17,461	6,517	59.6%
	アセアン	5,212	6,047	834	16.0%
	中国・韓国	2,252	1,881	△371	△16.5%
	海外計 (構成比)	18,408 (29.2%)	25,390 (32.8%)	6,981	37.9%
合計		63,011	77,470	14,459	22.9%

# セグメント損益（前年同期比）



- 日本では、増収影響とコスト改善活動の実施に加え、原材料/エネルギー費/労務費上昇分の価格への一部転嫁等により増益
- 中米・北米では、増収影響と中米での為替影響により増益
- アセアンでは、増収影響とコスト改善等により増益
- 中国・韓国では、減収影響と移管製品の初期品質対応により減益

(百万円)

		FY2022	FY2023	前年同期比	
		Q2累計	Q2累計	増減額	増減率
国内	日本 (構成比)	△862 (-)	2,553 (51.3%)	3,416 (-)	-
海外	中米・北米	△2,078	1,996	4,075	-
	アセアン	495	692	196	39.6%
	中国・韓国	14	△267	△282	-
	海外計 (構成比)	△1,568 (-)	2,420 (48.7%)	3,988 (-)	-
連結調整		984	△687		
連結営業損益		△1,446	4,285	5,732	-



## 2. 中期経営計画の重点取組み

## CSR経営の強化

社会課題解決への貢献

収益力の確保

### 経営基盤戦略

産学官連携  
働き方改革  
コンプライアンス  
ステークホルダーとの関係深化

DX D&I経営  
BCP対応

### 顧客戦略/拠点戦略

OEM売上高拡大  
シーズ発信強化  
グローバル売上高拡大  
米国工場の2直化対応

### 商品戦略

電動化対応  
テールゲート技術革新

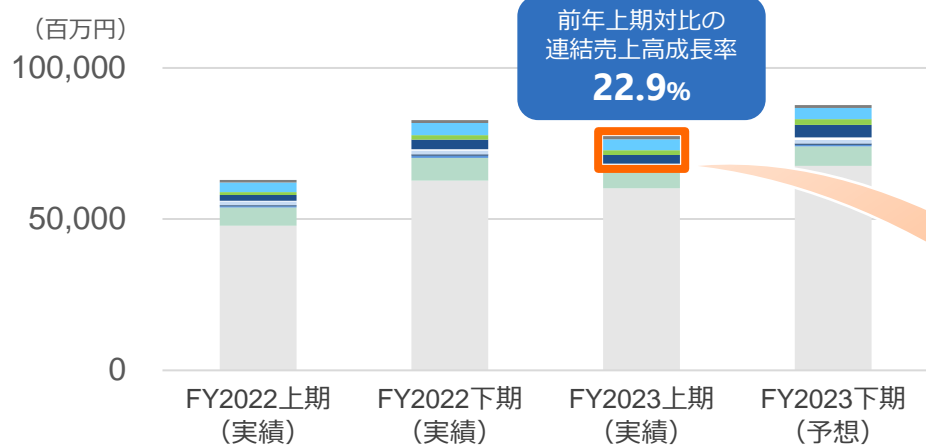
### ものづくり戦略

カーボンニュートラル

省エネ MBD  
リサイクル

自動化

## 連結売上高（顧客別）

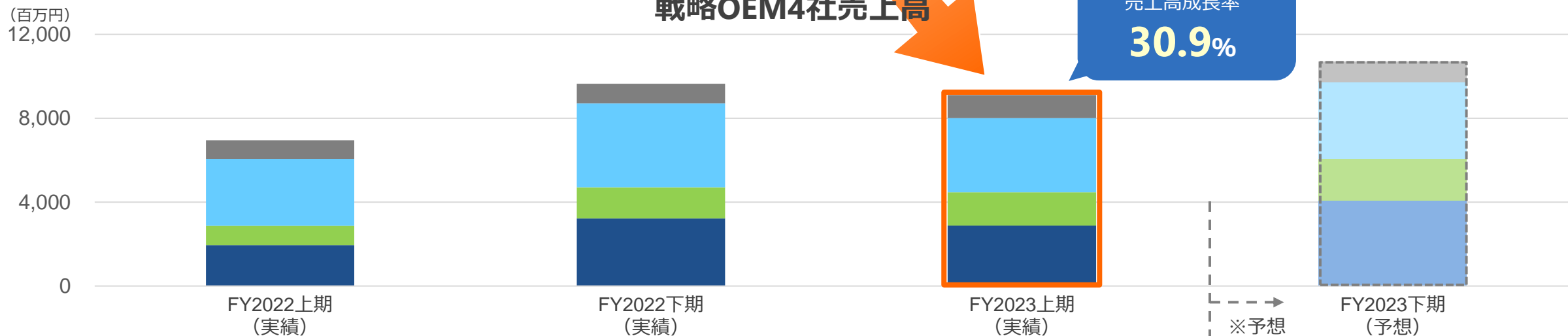


## 戦略OEMへの積極的な拡販活動を継続中

### 貢献アイテム

- トヨタ向け：バンパー、バッテリーカバー、パネル
- ホンダ向け：テールゲート、リアスポイラー、ルーフレール
- 三菱向け：バンパー、オイルストレーナー
- スバル向け：給油口、オイルストレーナー

## 戦略OEM4社売上高



## 顧客のニーズを先取りした新製品・新技術の提案により新規アイテムの拡販を目指す

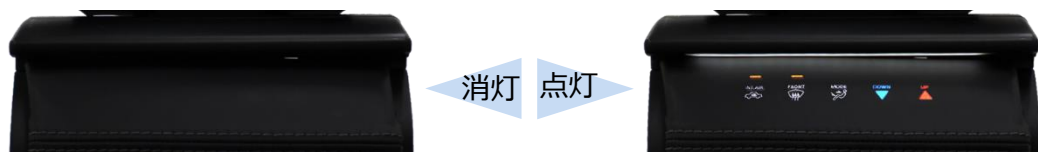
### トヨタ社内技術展示会「技術者の一日」

光透過表皮をはじめとする  
次世代技術を出展



#### 光透過クラスタースイッチコンセプト

シームレスなデザインで驚きある新たな演出が可能に

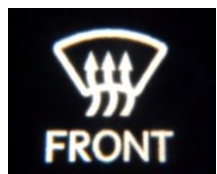


ソフト表皮で精緻かつ鮮明な表示を実現

一般的な透過表皮



DNC開発品



### ダイハツ向け新製品・新技術展示会

環境にやさしい次世代技術と  
電動化対応部品を出展



#### セルローズナノファイバー複合材

エンジニアリングプラスチック比で

重量△15%、CO<sub>2</sub>排出量△30%、耐熱性40%向上



#### 樹脂製 一体型中空パイプ

ステンレス製品比で

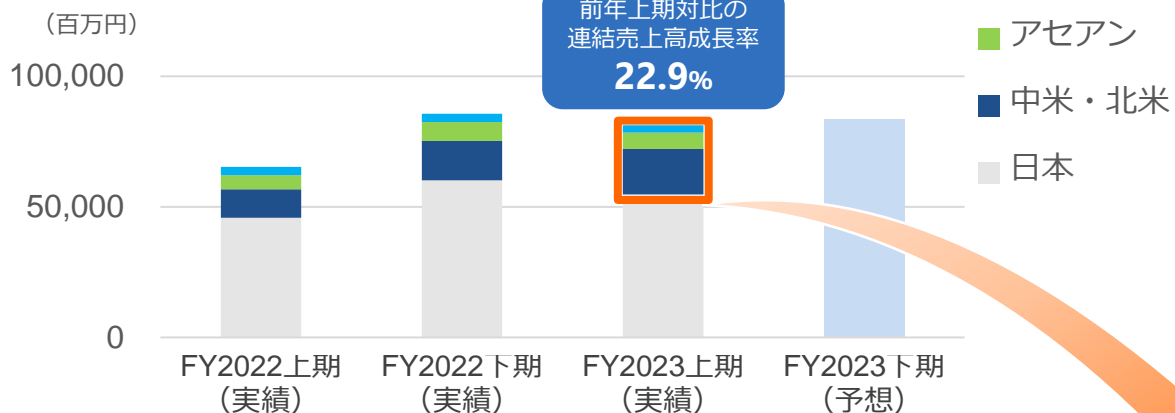
重量△30%

コスト△20%

高い熱マネジメント性能



## 連結売上高（拠点別）

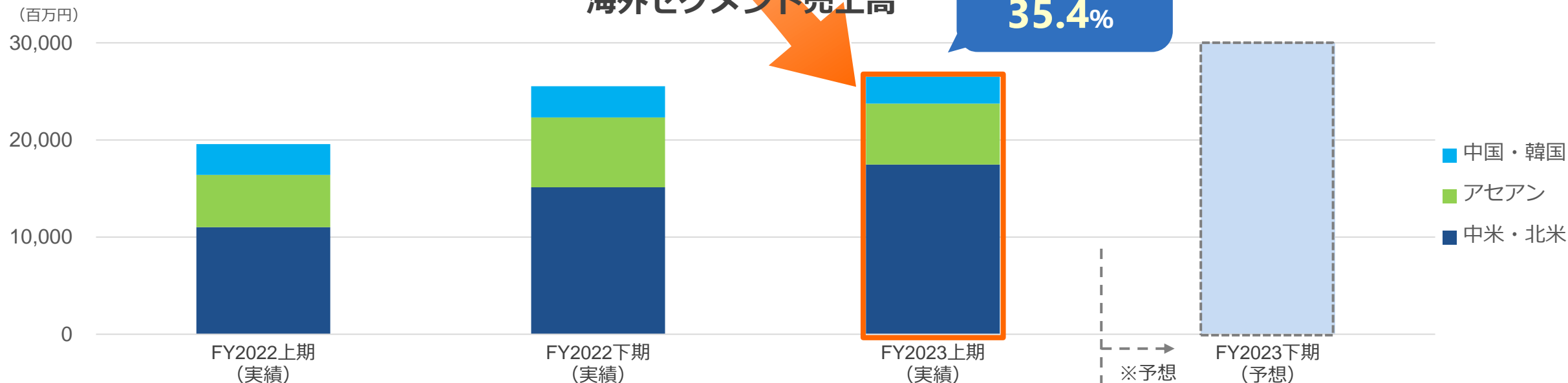


中期的には北米（DNUS）がグローバル売上高の成長ドライバーとなる

### 貢献アイテム

- 北米：バンパー、オーバーフェンダー、サイドガーニッシュ
- ASEAN：リアスポイラー、ルーフレール

## 海外セグメント売上高

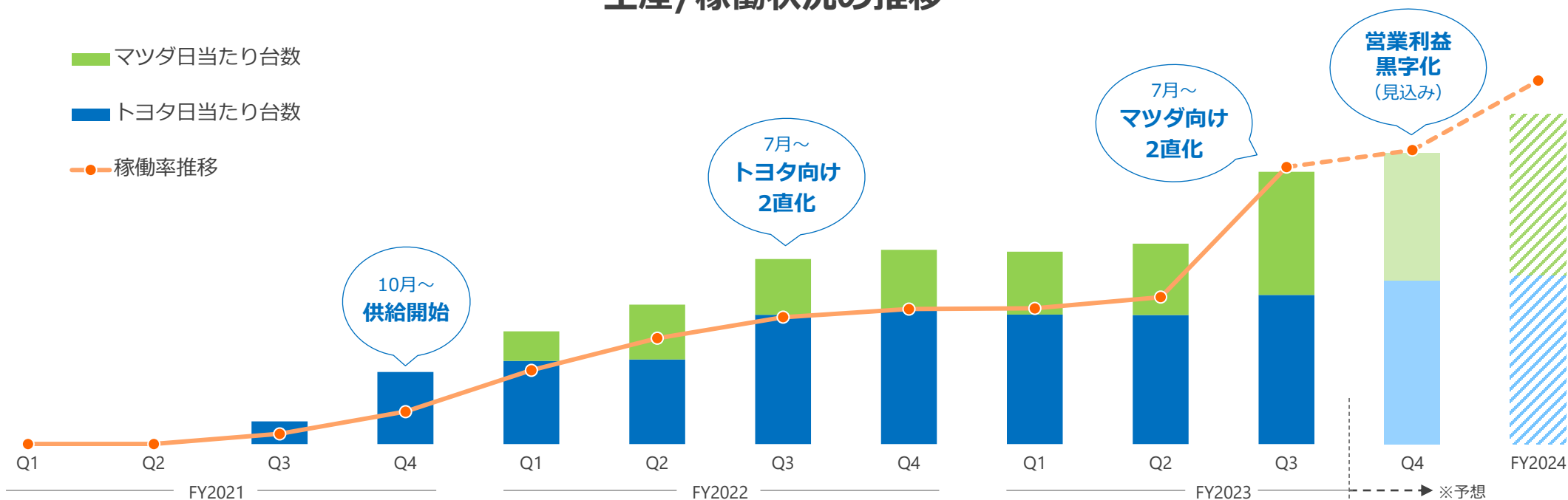


## 顧客の増産に応じた生産体制を構築し、継続的な人材の確保/育成を強化

- 生産体制**
- 増産に先駆け、各工程の難作業の改善とリーダークラスの先行採用/作業者トレーニングを実施
  - 部品の追加受注による量産対応を短期開発で実現し、自動化ラインを順次導入

- 経営状況**
- FY2023Q4（10～12月）の単独黒字化（営業利益）を見込む
  - FY2024は、通期での黒字化（当期純利益）を目指す

### 生産/稼働状況の推移

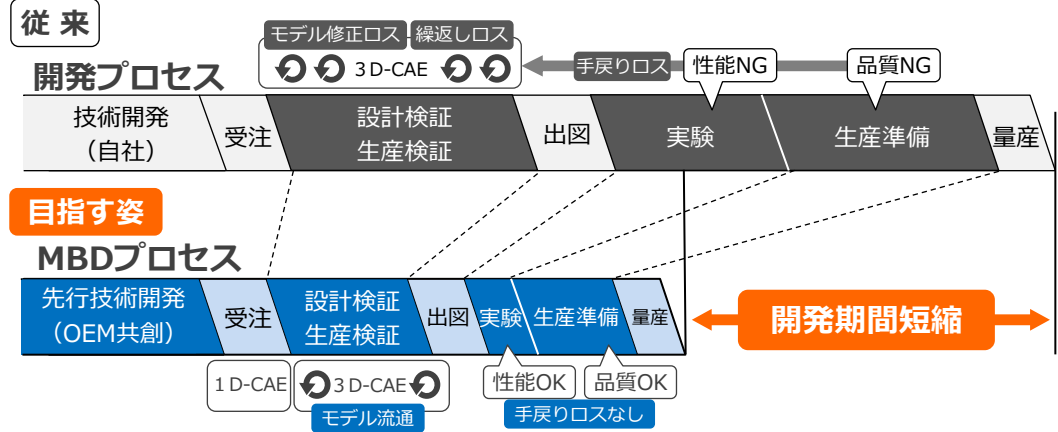


## 脱炭素社会に向けた「モジュール開発」と機能統合を含む「システム開発」の構築を強化



## 机上検証型開発への変革に向けた「開発プロセス」「CAE技術」の革新

### モデルベース開発 (MBD) により高効率な短期開発プロセスを実現

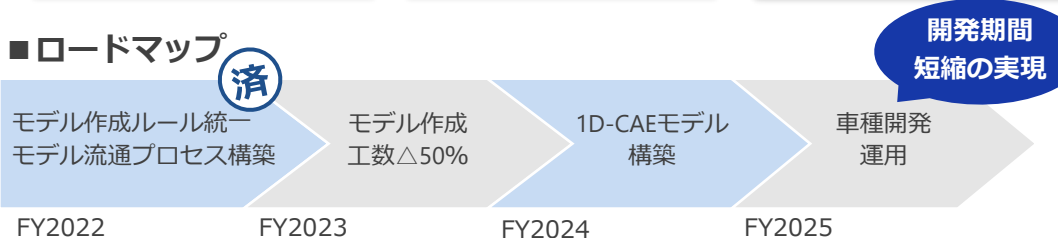


■ 目指す姿の実現に向けた課題

車種開発  
トライアル中

CAE解析期間短縮・・・解析結果をタイムリーにフィードバック

- モデル統一による効率化**  
OEM・サプライヤー間のモデル流通体制の構築  
モデル授受 環境整備
- 3D-CAE期間短縮**  
モデル作成工数半減  
モデル作成工程効率化  
自動化の確立
- 3D-CAE回数削減**  
開発初期段階で1D-CAE  
物理式の活用  
機能最適化設計の確立



FY2023上期までの活動実績

- モデル統一による効率化**  
モデル流通プロセス構築  
FY2025車種開発運用に向け、モデル流通トライアル中  
⇒課題抽出・対策に取り組む
- 3D-CAE期間短縮**  
モデル作成ルール統一とモデル作成工数半減  
モデル作成工程の効率化で、45%工数削減を実現
- 3D-CAE回数削減**  
1D-CAEモデル構築  
インパネ衝撃性能の主要部位で1D-CAEバネマスモデル物理式を構築

モード図

バネマスモデル

計算結果

モデル作成時間

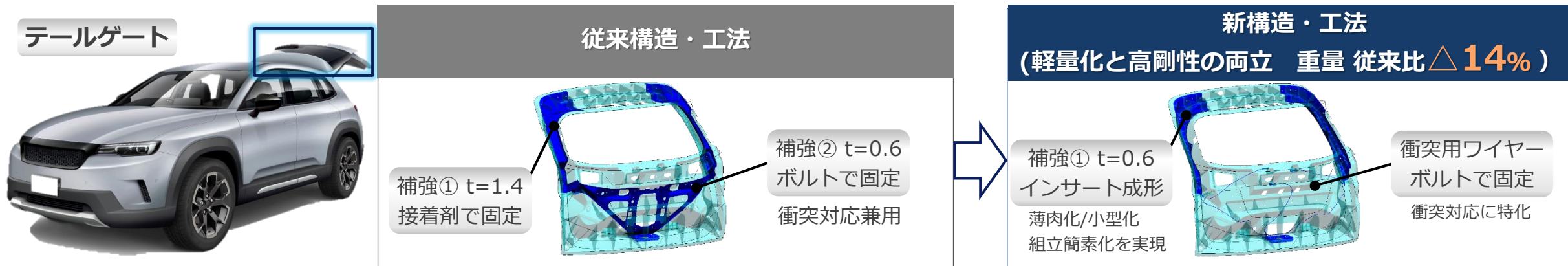
項目	従来	前期改善実績	2Q改善実績	目標
モデル作成時間	100%	△30%	△45%	目標 △50%

アッセンブリモデル提供

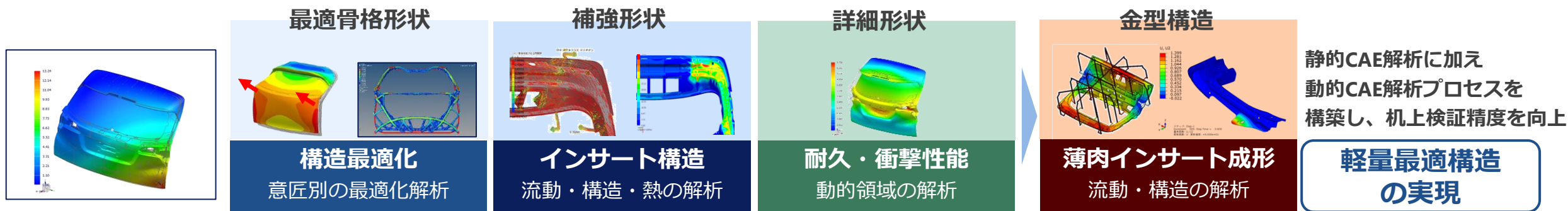


## 必要最小限の補強による軽量化技術のさらなる深化

### インサート成形による補強部品の最小化と高剛性化で軽量化を実現



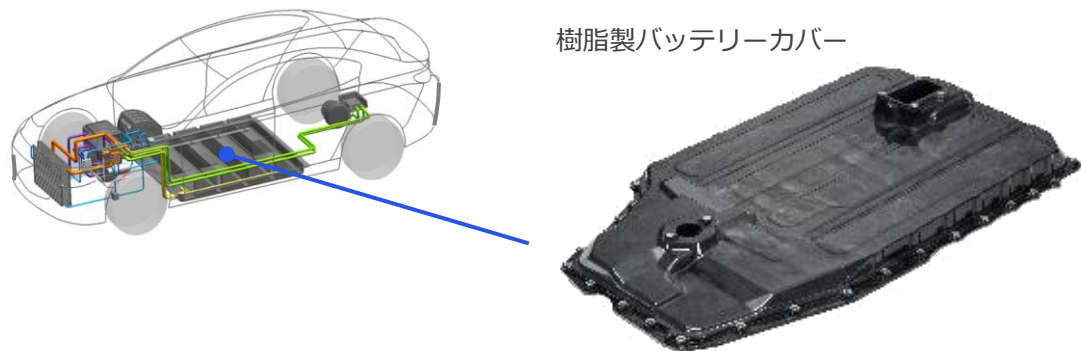
### 構造・工法の机上検証精度UPに繋がるCAE解析プロセスの構築



従来のCAE解析に新たなプロセスを融合

## E V用電池パック内部部品の進化

電動化対応の耐火性規格（GB規格）をクリアするSMC材料開発を行い、鉄から樹脂へ置換



## 樹脂製バッテリーカバーへの置換メリット

- 1 CO<sub>2</sub>排出量  $\Delta$ 40%      重量  $\Delta$ 30%

---

- 2 安全性向上      バッテリー熱暴走時の絶縁性向上

---

- 3 形状、レイアウト自由度向上

## 人と地球にやさしい高効率生産の追求

バッテリーカバーの成形工程に省エネ/高効率生産仕様のSMC樹脂プレス成形機を導入（2023年10月）

**製品1個当たりCO<sub>2</sub>排出量 40.6%削減**



SMC樹脂プレス成形機

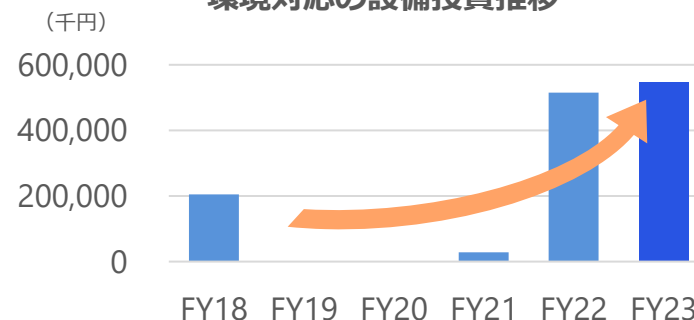
①生産性向上のため、成形品取り数UPと油圧回路/経路改善によるサイクルUP

▶生産性：従来比**2.1倍**

②消費電力削減のため、アキュムレータ（蓄圧タンク）を導入し、モーターを小型化

▶成形機消費電力：従来比 $\Delta$ **18.7%**

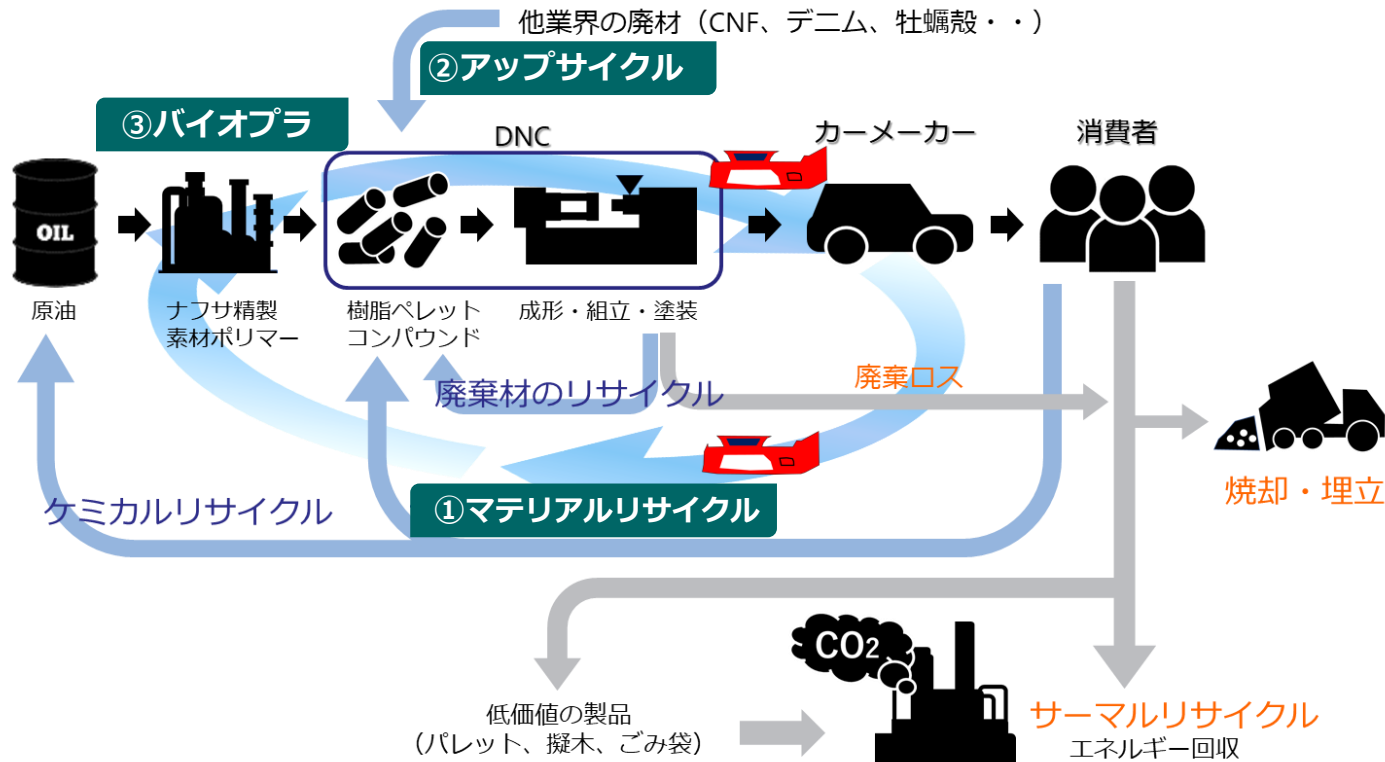
環境対応の設備投資推移



- ・省エネ改善  
(廃熱リサイクル等)
- ・省エネ更新  
(成形機、ボイラー、設備更新等)

CO<sub>2</sub>を排出する『**燃料としてのリサイクル**』から  
資源を循環させる『**材料としてのリサイクル**』へ

## 廃棄ロス削減の主な取り組み



### ①マテリアルリサイクル

産学官連携で**マテリアルリサイクルの要素技術開発を推進**

- ・市場における樹脂劣化メカニズム解明
- ・物理・化学劣化に対する機能復元技術の確立

### ②アップサイクル

廃棄される材料を再利用し、製品の付加価値向上

- ・間伐材の木質繊維を活用した複合材開発
- ・廃棄非可食材料を有効利用した意匠製品の開発 (牡蠣殻、もみがら、デニム端材など)

### ③バイオマスプラスチック

植物由来樹脂を積極採用し  
CO<sub>2</sub>排出量を低減



植物由来の樹脂を多用したコンセプトモデル  
人とくるまのテクノロジー展2023に出展

## マテリアルリサイクルの開発 MBRとMBDを連携

劣化メカニズムをモデル化し材料モデルにつなげ、材料性能の復元技術を確認する

### MBR（材料）

### MBD（構造）

**材料モデル（界面）**

スケール nm~μm

**材料モデル（機能）**

スケール mm

**部品モデル**

スケール m

**ユニット/車両モデル**

複数機能（剛性・振動減衰）  
品質（そり変形、劣化）

- 界面接着性
- 厚さ(体積)
- 機械特性

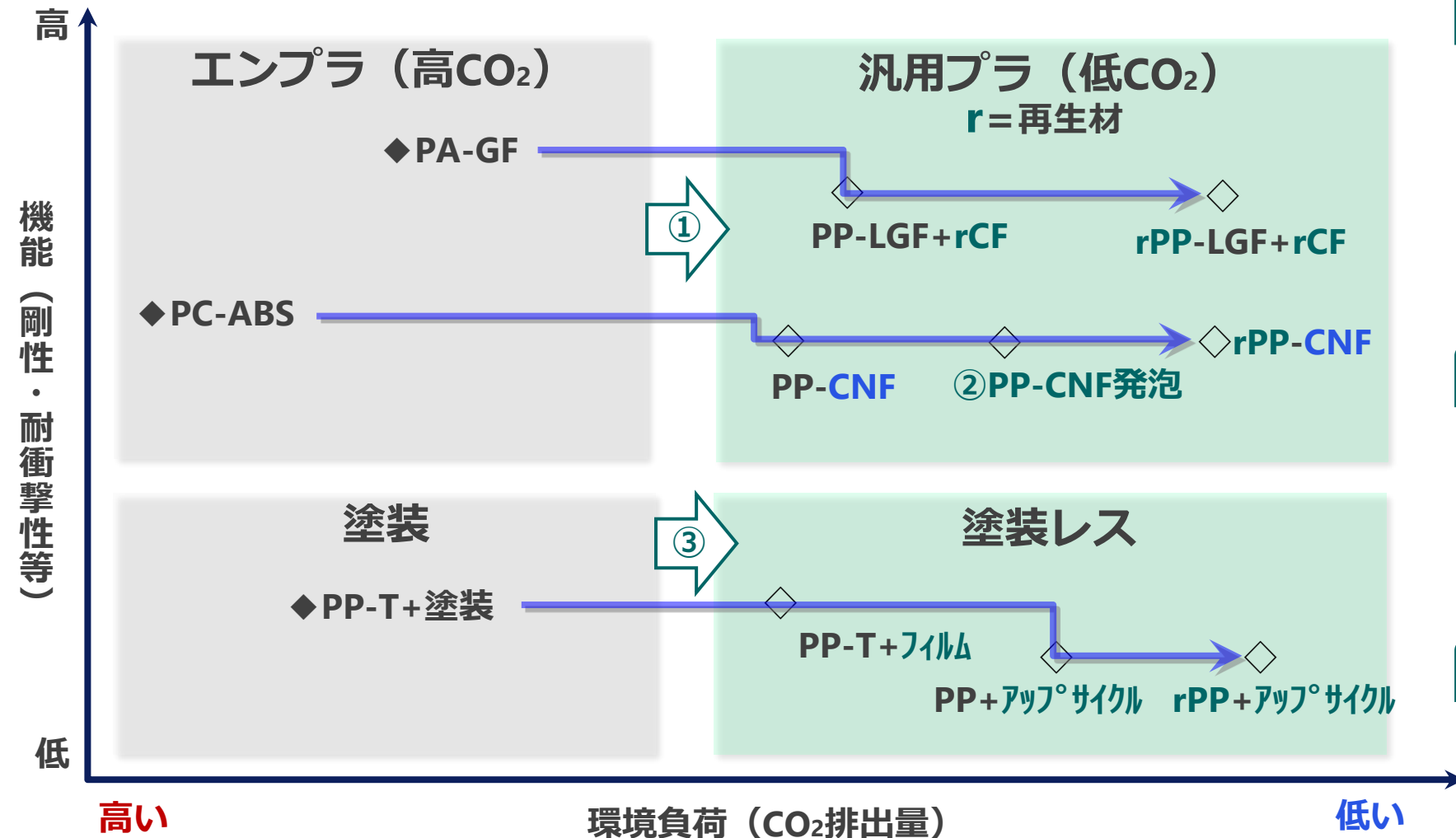
ガラス繊維 界面 ポリプロピレン  
PP/繊維結合状態

**工法モデル**

**劣化モデル**

市場の使い方から  
樹脂製品の劣化メカニズムを解明し  
予測モデルを構築

## CO<sub>2</sub>排出量低減を柱とした自社材料・工法開発のロードマップ



### ① 低CO<sub>2</sub>材料への置換

エンプラ (PC-ABS、PA) から汎用プラ (PP) への置換と再生材の活用

- ・セルロースナノファイバー (CNF) の活用
- ・リサイクルポリプロピレン (rPP) やリサイクルカーボンファイバー (rCF) の活用

### ② 低比重成形工法の展開

- ・発泡成形工法の部品展開



### ③ 塗装レス工法の開発

- ・塗装代替フィルム工法の開発
- ・アップサイクルによる意匠開発

## 軽量・低CO<sub>2</sub>・高耐熱の特性を活かしたCNF複合材開発

### 特徴

独自の材料処方により塗装外観品質を実現  
材料の製造に至るプロセス全体でCO<sub>2</sub>排出量を低減

### 効果

汎用樹脂とCNF（セルロースナノファイバー）の  
複合材料を自社開発

対エンジニアプラスチック製品比

重量 △15%

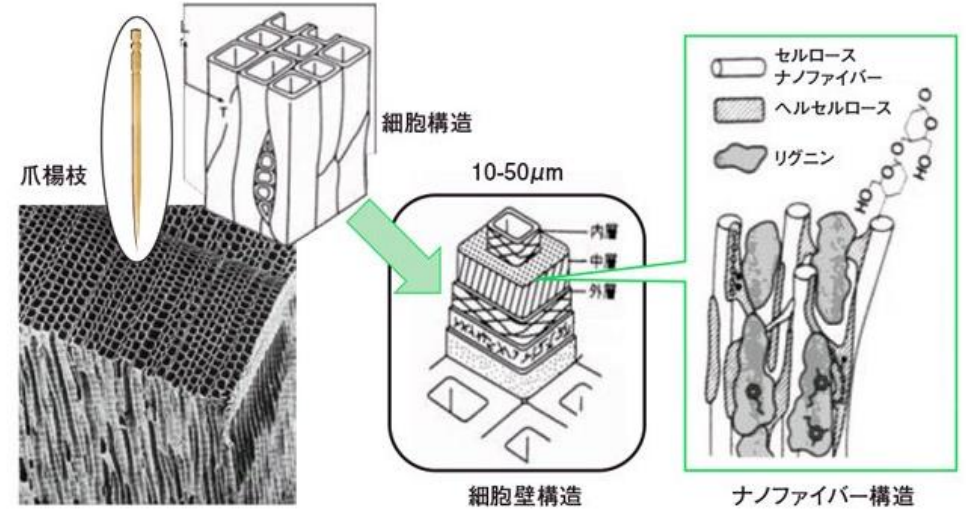
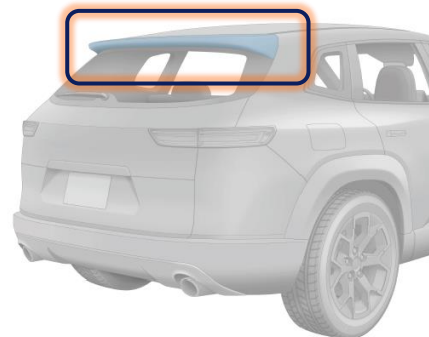
CO<sub>2</sub>排出量 △30%

耐熱性 同等

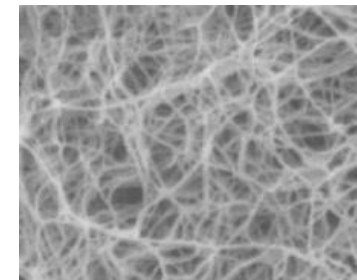
### 開発進度

塗装外板部品の応用開発完了

CNFを活用した  
PPスポイラー



植物中のセルロースの構造 ※1

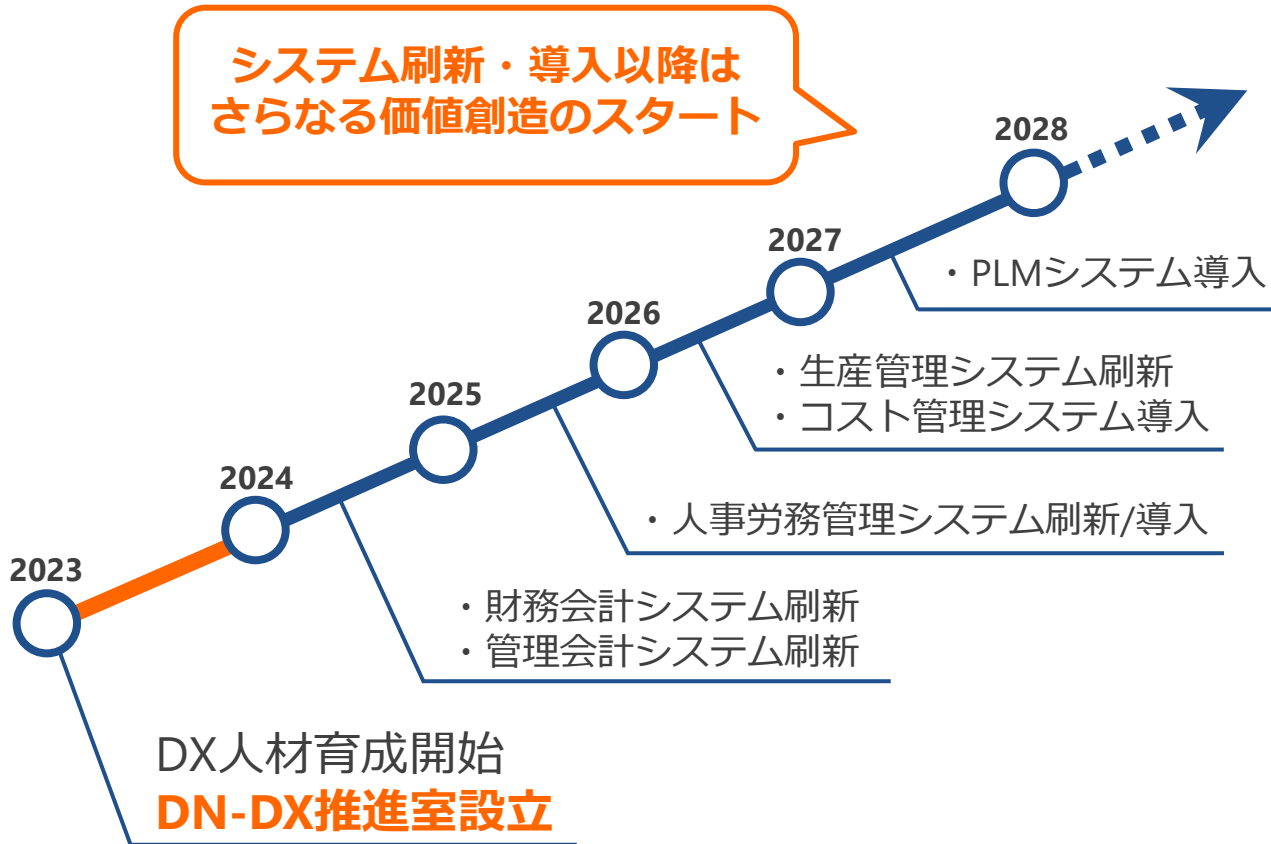


CNF（セルロースナノファイバー）

抽出

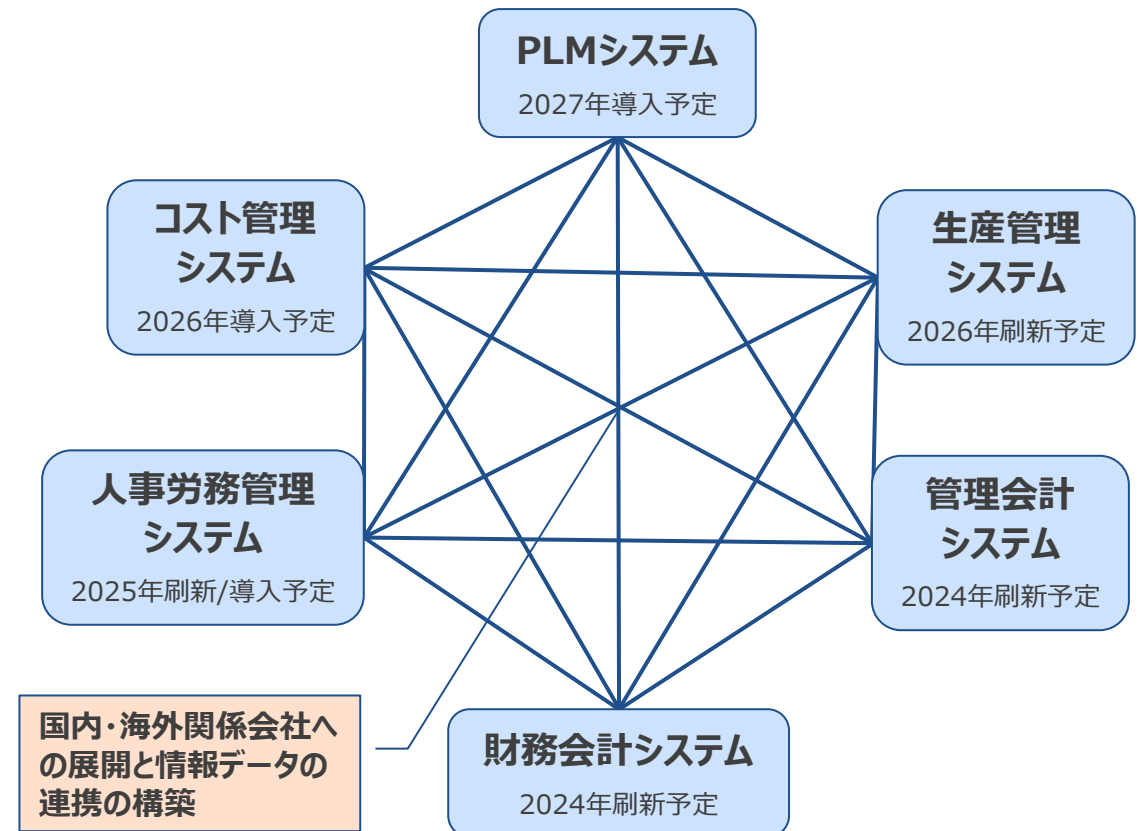
## DN-DX活動で実現したい姿と継続的活動

社員一人ひとりが主役となり、実現したい姿へ向けて、部門間の壁を越えたDN-DX活動を全社一丸の取組みとして推進



## システム導入のプロジェクト活動

システム間の連携を強化させることで個別最適から全体最適への変革を目指し、業務プロセスの最適化を加速

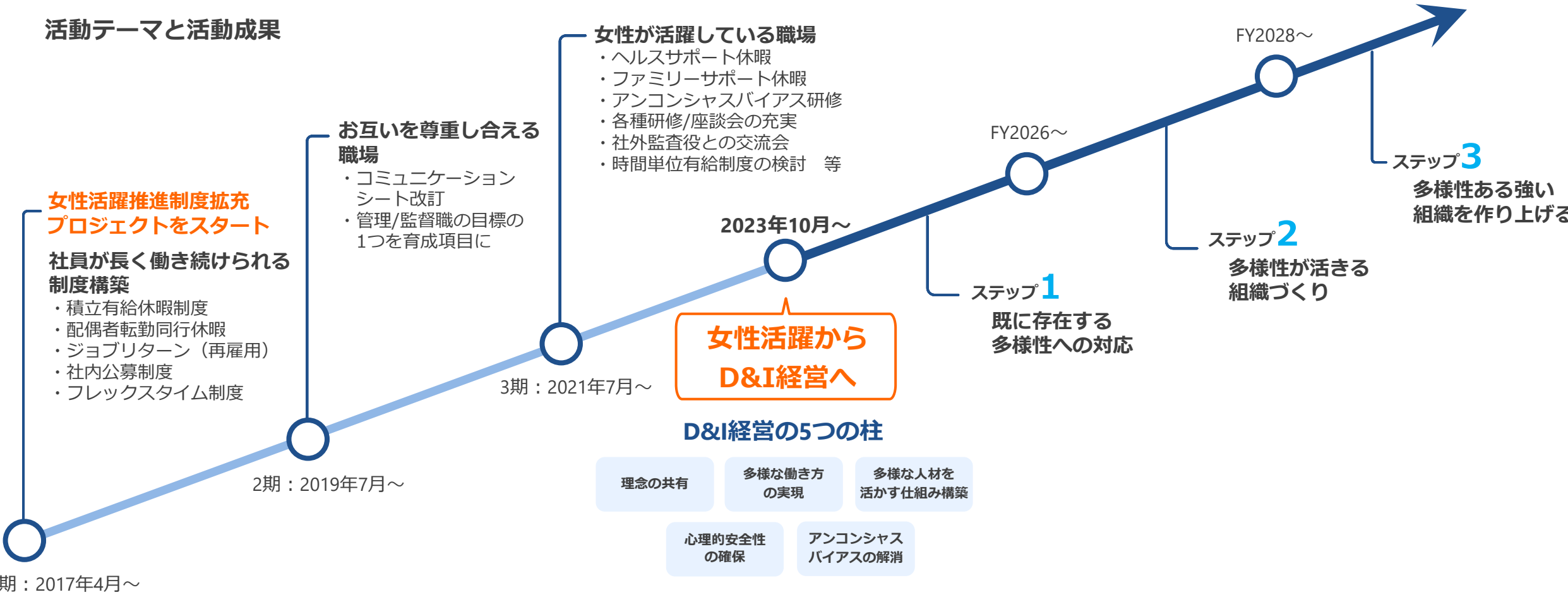


## 女性活躍の取組みから、さらなる働きがい向上を目指したD&I経営へとステップアップ

### 女性活躍推進の成果

### D&I経営の3つのステップ

#### 活動テーマと活動成果





### 3. 2023年度 連結業績予想

# 2023年度 連結業績予想



通期

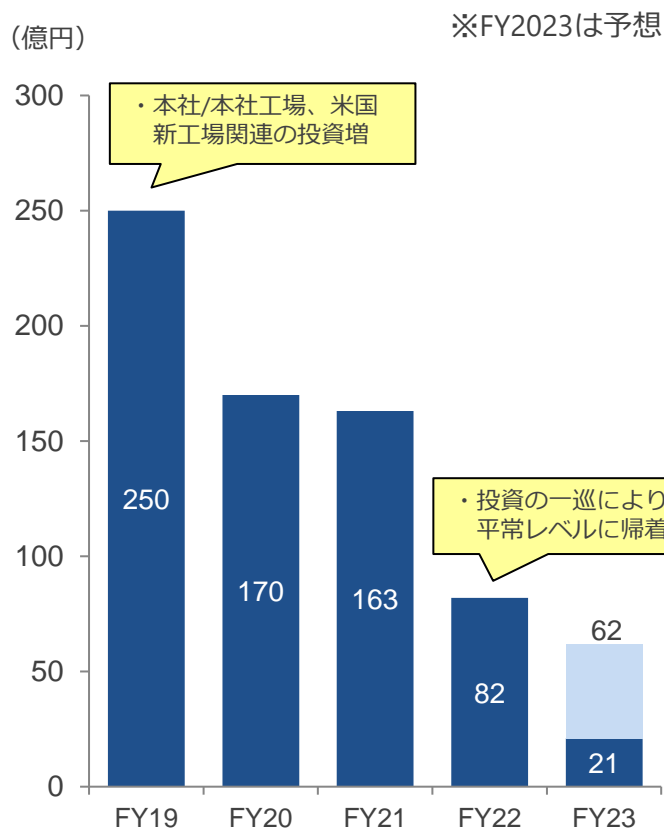
- 売上高/営業利益は、上期の実績との差異に加え、下期の中米での車種構成の変化や為替影響による増収と、北米での部品追加受注による要具売上の増加等をふまえ、増収増益の見込み
- 経常利益は、Q2決済分の為替差益の計上により増益見込み
- 親会社に帰属する当期純利益は、中国における事業環境の変化等をふまえた固定資産の減損損失と、持分法適用関連会社の株式売却益を織り込み

(百万円)

	FY2022	FY2023 (8/8公表)	FY2023 (11/7公表)	前回予想比		【参考】FY2023 (5/11公表)
	通期実績	通期予想	通期予想	増減額	増減率	通期予想
売上高	145,744	160,000	165,000	5,000	3.1%	163,000
営業利益	3,453	8,300	10,300	2,000	24.1%	8,200
営業利益率	2.4%	5.2%	6.2%	1.0pts		5.0%
経常利益	2,864	7,700	9,800	2,100	27.3%	7,200
親会社株主に帰属 する当期純利益	518	5,000	5,200	200	4.0%	4,800

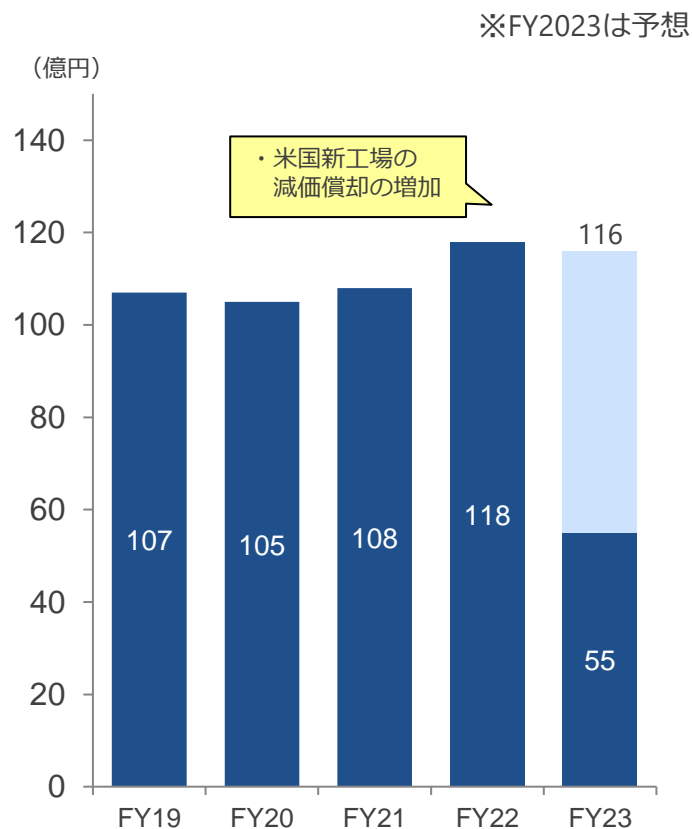
## 《設備投資額》

顧客の新車投入タイミングの変更等により期初計画(77億円)から減少



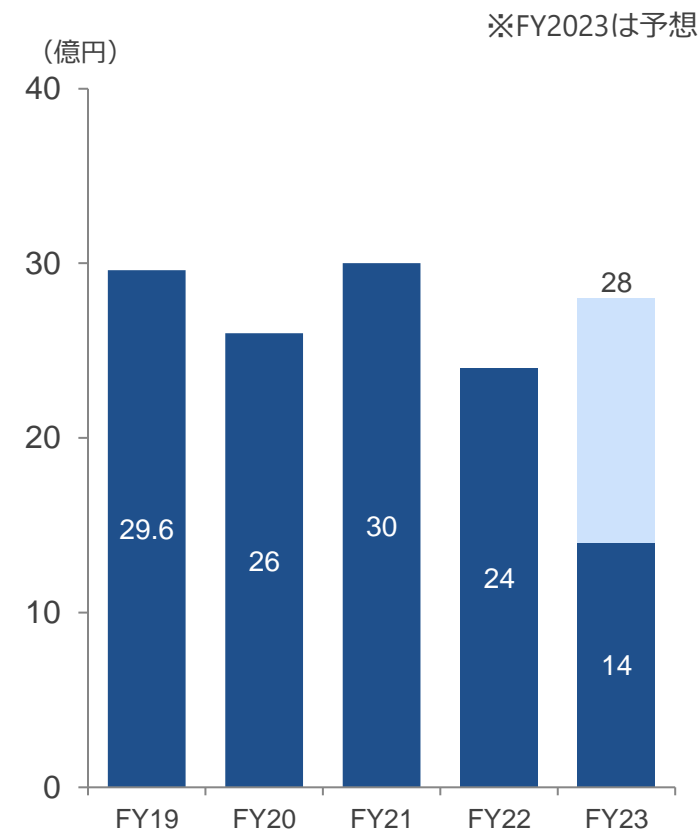
## 《減価償却費》

設備投資の抑制等に伴い期初計画(123億円)から減少

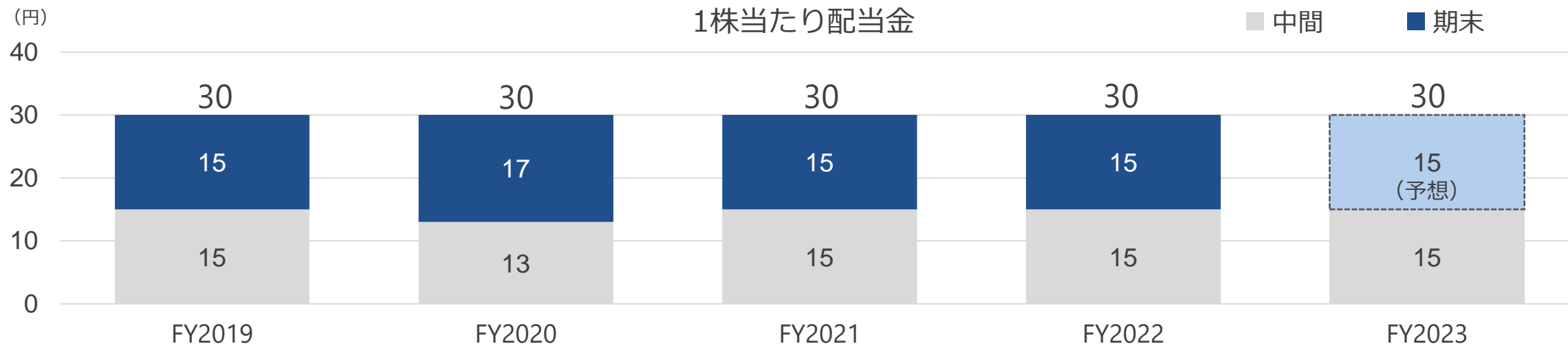


## 《研究開発費》

社会や顧客の期待を上回る商品創出に向け研究開発を継続



- FY2023の1株当たり中間配当は予想どおり15円
- FY2023の1株当たり年間配当予想は30円を維持



## 配当性向

FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023 (予想)
43.3%	83.9%	—	411.2%	41.0%

### 【ご注意事項】

本資料には、戦略や見通しなど将来の業績に関する記述が含まれております。これらは現時点における当社の判断に基づくものであり、リスクや不確実性を含んでいます。経営環境の変化など様々な要因により、変更されることがあります。また、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。

実際の結果は様々な要因によって見通しと異なる可能性があることをご了承下さい。

### 【IRに関するお問合せ先】

経営企画本部 広報・ブランディング推進部

広報・IRグループ

Tel : 082-493-5610

# 参考資料

# 主要な業績及び財務指標の推移 (連結)



	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3	2023/3
売上高	171,967	184,314	182,219	150,234	116,669	145,744
売上原価	145,691	160,738	163,780	136,690	108,934	131,955
売上総利益	26,276	23,575	18,438	13,544	7,735	13,789
販売費及び一般管理費	8,224	8,954	9,443	9,087	10,368	10,335
営業利益(損失)	18,052	14,621	8,995	4,456	△2,632	3,453
営業利益率	10.5%	7.9%	4.9%	3.0%	△2.3%	2.4%
営業外収益	1,075	764	1,121	1,273	2,191	807
営業外費用	385	550	616	342	544	1,396
経常利益(損失)	18,742	14,836	9,500	5,386	△985	2,864
特別利益	14	332	318	2,264	1,277	19
特別損失	238	279	2,140	4,097	1,201	368
税金等調整前当期純利益(損失)	18,518	14,889	7,678	3,553	△909	2,515
法人税等	5,346	3,838	2,455	1,595	1,274	1,975
非支配株主に帰属する当期純利益(損失)	706	648	315	△578	△98	21
親会社株主に帰属する当期純利益(損失)	12,464	10,402	4,907	2,536	△2,085	518
設備投資	13,149	16,489	25,012	17,011	16,313	8,278
減価償却費	9,078	9,561	10,716	10,510	10,798	11,895
研究開発費	3,052	3,003	2,968	2,603	3,049	2,473
売上高成長率	10.5%	7.2%	△1.1%	△17.6%	△22.3%	24.9%
自己資本当期純利益率(ROE)	20.4%	14.7%	6.5%	3.3%	△2.8%	0.7%
総資産経常利益率(ROA)	14.4%	10.4%	6.4%	3.5%	△0.6%	1.8%
1株当たり当期純利益(EPS)(円)	175.94	146.82	69.27	35.75	△29.37	7.30
1株当たり配当金(円)	34.00	34.00	30.00	30.00	30.00	30.00
配当性向(%)	19.3%	23.2%	43.3%	83.9%	-	411.2%
純資産配当率(DOE)(%)	3.9%	3.4%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%
配当利回り(%)	1.9%	3.3%	6.1%	3.9%	5.6%	4.7%
株価純資産倍率(PBR)(倍)	1.83	0.97	0.45	0.72	0.52	0.61
株価収益率(PER)(倍)	9.91	6.92	7.13	21.65	-	88.36
従業員数(名)	5,072	5,265	5,432	5,414	5,482	5,461

(百万円)

	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3	2023/3
流動資産	84,495	85,554	77,137	80,257	69,316	73,672
現金預金	42,684	37,571	32,529	39,842	28,455	28,070
受手、売掛金、電子記録債権	33,258	35,995	33,056	31,760	29,138	33,916
棚卸資産	7,102	10,119	9,564	7,399	7,592	8,136
その他流動資産	1,450	1,867	1,987	1,255	4,130	3,548
固定資産	54,740	60,801	73,347	79,037	86,845	89,226
有形固定資産	48,903	55,189	68,346	73,167	80,432	81,036
無形固定資産	1,163	976	767	741	799	887
投資その他資産	4,673	4,634	4,233	5,128	5,613	7,302
資産合計	139,235	146,356	150,484	159,295	156,162	162,899
流動負債	60,621	47,057	47,007	45,557	39,067	45,456
支手、買掛金	35,621	26,448	25,579	24,823	22,904	24,999
短期借入金	2,911	2,509	1,757	1,694	1,442	1,470
一年内返済借入金	2,803	2,941	2,912	2,272	4,882	5,562
リース債務	3,693	3,298	3,344	2,807	2,755	2,729
その他流動負債	15,591	11,859	13,412	13,958	7,083	10,693
固定負債	8,894	22,097	23,089	33,848	40,176	39,020
社債・長期借入金	2,069	15,549	17,658	29,241	34,128	32,191
リース債務	2,905	2,790	2,089	1,431	2,899	2,930
その他固定負債	3,919	3,757	3,341	3,175	3,147	3,898
負債合計	69,515	69,155	70,096	79,405	79,243	84,477
純資産合計	69,719	77,200	80,387	79,889	76,918	78,422
有利子負債	14,383	27,089	27,762	37,447	46,108	44,885
ネット有利子負債	△28,300	△10,482	△4,766	△2,394	17,652	16,814
自己資本比率	48.4%	50.8%	51.3%	48.5%	47.5%	46.4%
営業キャッシュフロー	24,742	3,219	19,584	16,788	3,705	14,048
投資キャッシュフロー	△13,547	△19,539	△24,370	△17,567	△20,107	△8,991
財務キャッシュフロー	△6,443	10,286	△2,012	8,565	3,579	△7,618
FCF	11,195	△16,320	△4,786	△779	△16,402	5,056

# 2023年度 第2四半期実績（直前四半期比）



## 第2四半期は第1四半期と比べると増収増益

- 国内を中心とした主要顧客の生産台数の増加
- 原材料/エネルギー費/労務費上昇分の価格への一部転嫁

(百万円)

	FY2022				FY2023		直前四半期比 (FY23Q2/FY23Q1)	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	増減額	増減率
売上高	30,074	32,937	39,618	43,114	37,217	40,253	3,035	8.2%
営業利益	△1,241	△205	823	4,076	1,339	2,945	1,606	119.9%
営業利益率	△4.1%	△0.6%	2.1%	9.5%	3.6%	7.3%	3.7pts	
経常利益	△1,008	△171	114	3,929	1,749	2,868	1,119	64.0%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	△1,127	△438	△362	2,446	1,150	1,799	649	56.5%



# セグメント別の外部売上（直前四半期比）



- 日本では、主要顧客の生産台数の増加と原材料/エネルギー費/労務費の価格への一部転嫁等により増収
- 中米・北米では、中米での顧客の生産台数の減少と、Q1に北米での前期までの2直化遅れ影響による費用の回収が含まれていたことにより減収
- アセアンでは、顧客の生産台数と金型売上の減少により減収
- 中国・韓国では、金型売上と顧客の生産台数の増加により増収

(百万円)

		FY2022				FY2023		直前四半期比 (FY23Q2/FY23Q1)	
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	増減額	増減率
国内	日本	19,431	25,171	28,062	30,291	23,973	28,107	4,134	17.2%
海外	中米・北米	6,390	4,552	7,020	8,072	9,186	8,275	△910	△9.9%
	アセアン	2,839	2,373	3,320	3,753	3,465	2,581	△884	△25.5%
	中国・韓国	1,412	839	1,215	997	592	1,288	696	117.5%
	海外計	10,642	7,765	11,555	12,823	13,244	12,145	△1,098	△8.3%
合計		30,074	32,937	39,618	43,114	37,217	40,253	3,035	8.2%

# セグメント損益（直前四半期比）



- 日本では、増収影響と原材料/エネルギー費/労務費上昇分の価格への一部転嫁等により増益
- 中米・北米では、減収影響とQ1に北米での前期までの2直化遅れ影響による費用の回収が含まれていたことにより減益
- アセアンでは、減収影響により減益
- 中国・韓国では、増収影響によりセグメント損失が減少

(百万円)

		FY2022				FY2023		直前四半期比 (FY23Q2/FY23Q1)	
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	増減額	増減率
国内	日本	△1,158	296	1,056	3,904	165	2,387	2,221	1338.4%
海外	中米・北米	△1,493	△585	△465	△206	1,322	674	△647	△49.0%
	アセアン	277	218	411	127	521	170	△350	△67.2%
	中国・韓国	65	△50	△19	△76	△260	△7	252	—
	海外計	△1,150	△418	△73	△155	1,583	837	△746	△47.1%
連結調整		1,067	△83	△159	327	△409	△278		
連結営業損益		△1,241	△205	823	4,076	1,339	2,945	1,606	119.9%

※FY2022Q1の連結調整にはFY2021に計上した中米・北米の開発費が含まれています

# 2023年度 第2四半期実績（業績予想比）



上期

- 売上高/営業利益は、主要顧客の生産台数減少はあったものの、収益改善活動が進んだことに加え、労務費上昇分の価格への転嫁を一部実施したこと等、一過性収益の増加により増収増益
- 経常利益は、為替差益等により増益

(百万円)

	FY2023		業績予想比	
	Q2累計業績予想 (8/8公表)	Q2累計実績	増減額	増減率
売上高	76,000	77,470	1,470	1.9%
営業利益	3,200	4,285	1,085	33.9%
営業利益率	4.2%	5.5%	1.3pts	
経常利益	3,100	4,617	1,517	49.0%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	2,000	2,950	950	47.5%